

前月末の子どもの姿

低月齢児：保育者のする行為に関心を持ち、手を伸ばしたり、声を出して呼びかける。

中・高月齢児：寒暖の差があるため、咳や鼻水の症状が見られる・戸外活動や散歩では、安定した歩行で、自分の関心のあるところや物への探索活動を楽しむ・喃語、指差しが盛んで、歌や手遊びも喜んで模倣する。

ねらい：発達に応じて、移動運動を楽しむ・保育者と一緒に戸外に出て散歩することを喜ぶ・気温の変化に応じた衣服で過ごす・秋の自然に親しみ、好奇心や関心を持つ・触れ合い遊びや音楽に合わせて、体を動かすことを楽しむ。

安全・健康：活発な動きを予測して子どもから目を離さず、安全に過ごせるようにするまた、十分に体を動かして遊べるようにする。その際には危険物がないかを確認し、安全を確保する・個々の体調の変化について保護者と話し合い、風邪や感染症などを未然に防ぐ・その日の気温や湿度、活動量に考慮して衣類の調節を行い、快適に過ごせるようにする

	内容	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助
養護	<ul style="list-style-type: none"> ○●薄着で快適に過ごす。 ○●オムツ交換し、きれいにする心地よさを感じる。 ○●安心できる環境の下で、ゆったりと過ごし、授乳や睡眠などの生活リズムを整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○●温度、湿度に留意して、暖房をつけたり、定期的な換気を行ったりする。 ○●子どもたちの健康状態に合わせて、衣服の調節をする。衣服は取り出しやすい場所に置く。 ○●汚れたオムツはすぐに処分し、衛生的に過ごせるようにする。消毒剤は必ず子どもの手の届かない場所に置く。 ○●スペースを区切り、保育者の優しい笑顔や語り掛けにより、安心して遊んだり授乳や睡眠をしたりする環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○●鼻水や咳などが見られる。 ○●薄着でも風邪をひかずに過ごす。 ●●排尿・排便した気持ち悪さを、発語や喃語で訴える。 ○●オムツが汚れている気持ち悪さを訴えることなく、遊び続ける。 ○●「おしりがすっきりしたね」の保育者の語りかけに笑顔を見せて、心地よさを感じる。 ●●トイレへ興味を示し、座ろうとする。また、座ることを喜ぶ(おまる) ○●ぐずり眠れず、泣いて起きる。 ○●午前寝を行うことで、機嫌よく活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○●登園時に保護者と家庭での様子や体調について話し合い、その子に応じた対応を行う。 ○●朝夕と日中の温度差に配慮しながら衣服を調節する。 ○●「すっきりしたね!」などの言葉をかけて、気持ちよさを感じられるようにする。 ●●トイレへの興味を示すような、絵本や読み聞かせを行う。 ○●抱っこや触れ合い遊びを通して情緒の安定を図る。 ○●起床時間や授乳量を考慮する。
教育	<ul style="list-style-type: none"> ○●ぐずり遣いや寝返り、お座りなど、発達に応じた移動運動を行い、探索活動を楽しむ。 ○●戸外に出かけ、秋の自然物に自ら関わり、遊ぶ。 ○●友達の様子に関心を持ち、顔や体に触れたり、笑い合ったりする。 ●●歌や音楽に合わせて保育者と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ●●簡単な言葉の意味が分かり、身振りや喃語、単語で自分の思いを表現する。 ★もぐもぐごっくんを楽しむ。また、自分から食べることを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○●移動が行えるように十分なスペースのある場所、活動しやすい場所を確保する。 ○●子どもたちが安全に、秋の自然が感じられる散歩コースを選ぶ。 ○●保育者間でどの子を見守るか分担しておき、背を向けずに見守る。 ●●日常的に音楽に触れることができる環境をつくる。 ●●保育者の優しい笑顔、見守り、語りかけにより、安心して語りかけられる雰囲気をつくる。 ★こぼれてもよい食事環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●●はいはいで探索をしたり、つかまり立ちしながら移動し、ときどき手を離して立つ。 ●●興味のあるところへ自由に歩いて行き、発語や喃語を発しながら、自然物に触れようとする。 ●●自分の好きな遊びを見付け、夢中で遊ぶ。 ●●友達への関心からかみつきやひっかけ、友達が使っている玩具を取ってしまう。 ●●音楽に合わせて体を動かし、保育者のまねをして手をたたく。 ★自分で手づかみで食べることを喜ぶ。 ★食材に興味を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○●子どもの活動量を把握し、個々の発達に合った活動を行えるようにする。 ○●個々の表現の仕方を笑顔で優しく受け止めることで、楽しさや喜びを味わえるようにする。 ○●個々の発達段階を把握し、その発達を促すような動きを援助する。 ●●友達との仲介をしながらも目を離さず、かみつきやひっかけを未然に防ぐ。 ●●同じ玩具を複数用意する。 ●●喃語を繰り返したり言葉を返したりして、言葉が発する楽しさを味わえるようにする。 ★分量を個々に合わせ、おかわりができるようにする。

職員との連携：薄着で過ごす大切さを確認し合い、気温の変化に合わせ、一人一人の体調や活動に配慮した衣服の調節ができるように共通理解をする。・個々の体調や発達について確認し、それぞれに合った過ごし方を提供できるようにする。・感染症について話し合い、体調の変化をすばやく発見して未然に防ぐ。腹ばいの子には足の踏ん張りができる活動内容を考えていく。

家庭との連携：薄着で過ごすことの大切さを伝え、調節しやすい衣服を準備してもらおう。・いろいろな物に興味を示して手を出すので、子どもが好奇心があること、成長する上でのリスクなどを伝える。・流行している感染症について知らせ、その予防に努めてもらうとともに、規則正しい生活を送って健康に過ごせるように留意してもらおう。

<自己評価>

<取り組みの状況と保育士の振り返り>

<食育の取り組みの状況と振り返り>

--	--	--